
2022年3月期 通期

決算説明資料

2022年5月11日



ユナイテッド株式会社
(東証グロース：2497)

アジェンダ

1	2022年3月期 決算概要		P1
2	2022年3月期 各事業の概況		P7
3	2023年3月期について		P16
4	Appendix		P23

本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることを、ご承知おきください。なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

事業セグメントおよび構成事業

成長期待事業

今後の成長を牽引する事業として、積極的に投資を実施

DXプラットフォーム事業

KIRAMEX
キラメックス株式会社

オンラインプログラミングスクール
「テックアカデミー」を運営

Brewus
株式会社ブリューアス

アプリ・システム開発事業を運営

UNITED
DXソリューション本部

企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)[※]
を支援するコンサルティングサービスを提供

LIBASE
株式会社リベイス

デザイナー特化型クラウドソーシングサービス
「JOOi」を運営

インベストメント事業

UNITED
投資事業本部

シード～アーリーからミドル～レイター
まで、成長が見込まれる幅広いスタート
アップ企業に投資

収益期待事業

収益性を重視する運営により、
安定的に利益を創出

コンテンツ事業

FOGG
フォッグ株式会社

アーティストの活動支援ができる
サービス「CHEERZ」等を運営

Plus U
プラスユー株式会社

「CocoPPa Play」「クラッシュフィーバー」
等のゲームアプリを運営

ISM
株式会社インターナショナル
スポーツマーケティング

スポーツに関わるWebサイト制作や
メディアの企画・開発

TREiS
トレイス株式会社

懸賞・プレゼントサイト
「ドリームメール」の企画・運営

アドテクノロジー事業

UNITED
Marketing Technologies
ユナイテッドマーケティング
テクノロジーズ株式会社

スマートフォン特化型のDSP「Bypass」、
同SSP「adstir」、広告最適化
アドネットワーク「HaiNa」を運営

※ 企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。（経済産業省「DX推進指標」）

2022年3月期 通期業績ハイライト

連結業績

売上高 : 12,714百万円 (前期比+1%)[※]
営業利益 : 5,738百万円 (前期比+2%)

成長期待事業

DXプラットフォーム事業

売上高 : 2,335百万円 (前期比 △9%)
営業利益 : △382百万円 (前期比 △189百万円)

キラメックス(株)
(株)ブリューアス
DXソリューション本部
(株)リベイス

詳細は P8

インベストメント事業

売上高 : 6,580百万円 (前期比 +11%)
営業利益 : 6,206百万円 (前期比 +10%)

ベンチャーユナイテッド(株)

詳細は P9

収益期待事業

コンテンツ事業

売上高 : 2,886百万円 (前期比 +4%)
営業利益 : 418百万円 (前期比 △10%)

プラスユー(株)
フォック(株)
(株)インターナショナルスポーツマーケティング
トレイス(株)

詳細は P13

アドテクノロジー事業

売上高 : 917百万円 (前期比 △31%)[※]
営業利益 : 453百万円 (前期比 △24%)

ユナイテッドマーケティングテクノロジーズ(株)

詳細は P15

※ 2022年3月期からの新収益認識基準(企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」および企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」)適用に伴い、比較の容易性を高めるため、当資料内においてはアドテクノロジー事業の過年度業績について同基準を適用し、集計・記載
なお、当資料と同日に開示した決算短信においては、同基準適用前の数値を記載

2022年3月期 業績予想比較

概ね業績予想値で着地。

EPSは自己株式の取得および消却の実施^{*}により前期比+8%。

	業績予想	実績	予想比	前期比
売上高	13,000百万円	12,714百万円	△2%	+1%
営業利益	5,700百万円	5,738百万円	+1%	+2%
経常利益	5,700百万円	5,757百万円	+1%	+2%
親会社株式に帰属する 当期純利益	3,900百万円	3,825百万円	△2%	+3%
EPS (一株当たり純利益)	186.00円	181.26円	△3%	+8%

※ 詳細はP24「2022年3月期実施の自己株式の取得および消却結果」に記載

連結損益計算書

販管費は、在宅勤務体制への移行に伴うオフィス縮小、および人件費の減少により、前期比△12%。

(単位：百万円)	2021年3月期	2022年3月期	前期比
売上高	12,609	12,714	+1%
売上総利益	8,590	8,363	△ 3%
販売費及び一般管理費	2,983	2,625	△ 12%
営業利益	5,606	5,738	+2%
営業外収益	48	26	△ 46%
営業外費用	9	7	△ 26%
経常利益	5,645	5,757	+2%
特別利益	20	64	+218%
特別損失	177	10	△ 94%
税金等調整前当期純利益	5,488	5,811	+6%
当期純利益 [※]	3,728	3,825	+3%

※「親会社株主に帰属する当期純利益」を示す

2022年3月期 期末配当について

連結配当性向20%の方針に基づき、期末配当20.0円、年間配当37.0円となる増配を予定[※]。

配当の内訳				
	2022年3月期		前年実績（2021年3月期）	
	中間	期末	中間	期末
基準日	2021年9月30日	2022年3月31日	2020年9月30日	2021年3月31日
1株当たり 配当金(半期)	17.0円	20.0円	15.0円	19.0円
1株当たり 配当金(年間)	37.0円		34.0円	
配当金総額 (年間)	764百万円		750百万円	
配当性向 (年間)	20.4%		20.1%	

※ 2022年6月下旬開催予定の第25回定時株主総会において決定

アジェンダ

- 1 2022年3月期 決算概要 P1
- 2 2022年3月期 各事業の概況 P7
- 3 2023年3月期について P16
- 4 Appendix P23

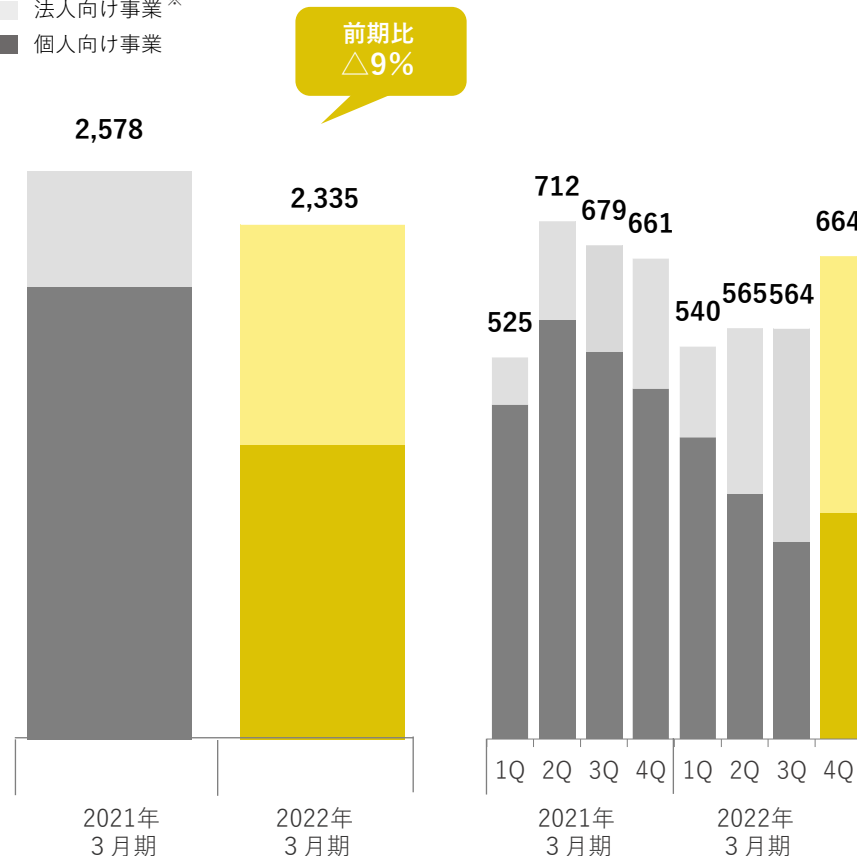
本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることを、ご承知おきください。なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

DXプラットフォーム事業 売上高・営業利益推移

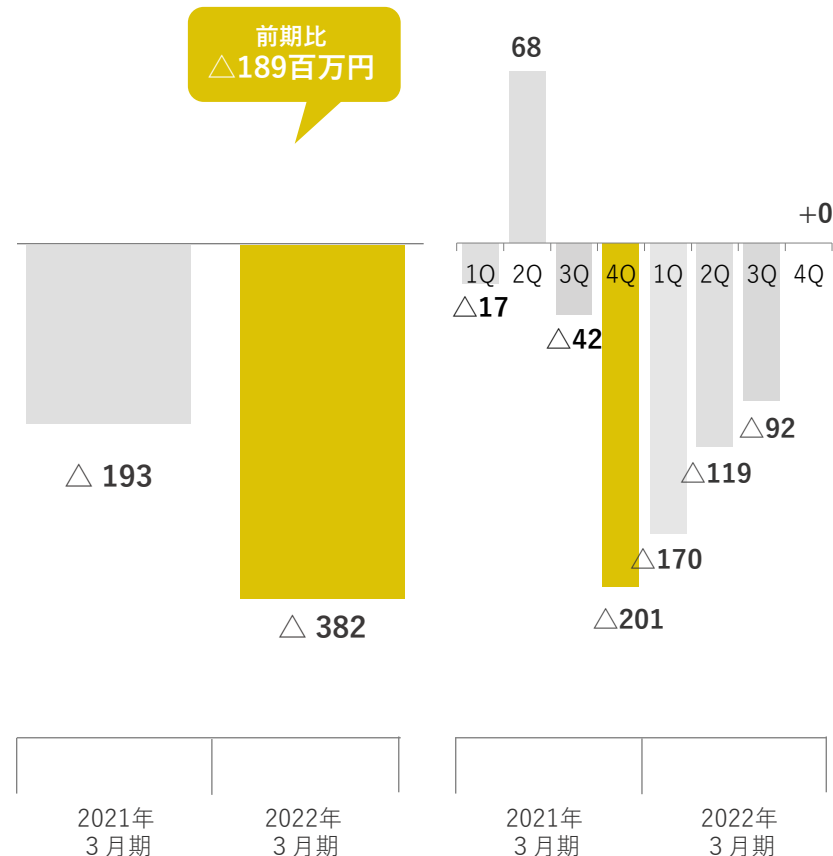
通期において、法人向け事業は、M&Aや積極的な事業領域拡張によって継続的に増収。
 一方、個人向け事業の「テックアカデミー」において、市場成長に比して競合サービスが増加し、
 受講者の獲得効率が悪化した影響により、セグメント全体では減収減益で着地。
 第4四半期において、法人向け事業である(株)ブリューアスの売上計上が集中し、セグメント全体で営業黒字化。

売上高推移 (単位：百万円)

法人向け事業 ※
 個人向け事業



営業利益推移 (単位：百万円)

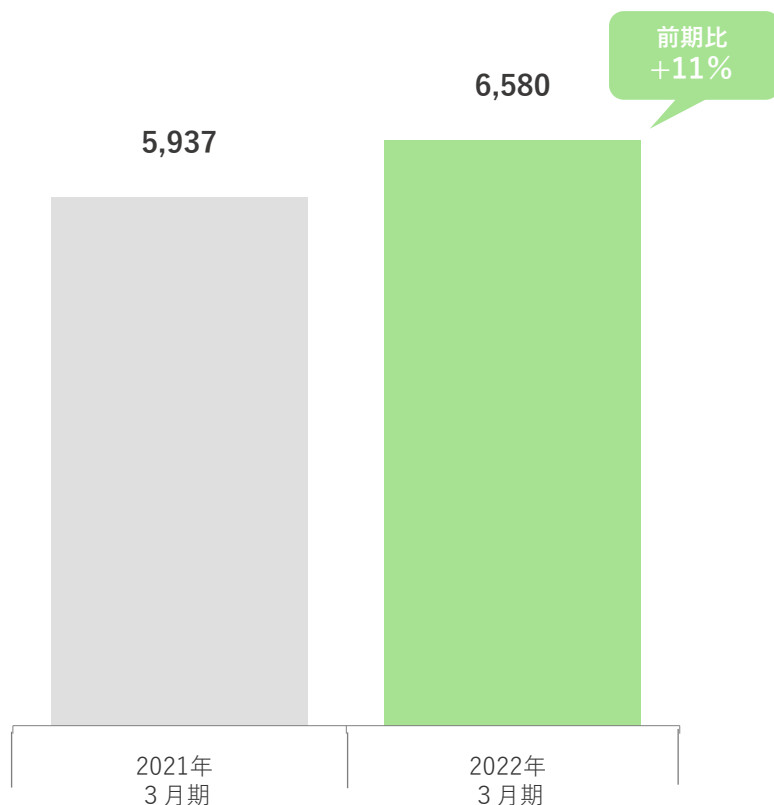


※ 詳細はP25「DXプラットフォーム事業内訳」に記載

インベストメント事業 売上高推移・営業投資有価証券残高

有価証券の売却、およびLP出資先の運用益の計上により、前期比+11%で着地。

売上高推移 (単位：百万円)



営業投資有価証券残高内訳

	投資先	2022年3月末 貸借対照表計上額
上場株式	メルカリ ワンダープラネット サイバー・バズ ソーシャルワイヤー等	約141億円 [※]
未上場株式	60社以上	約30億円
LP出資先	34本	約17億円

※うち(株)メルカリ株式の営業投資有価証券残高は13,512百万円(株式保有割合は2.6%、2022年3月31日時点)
上場株式は時価評価、未上場株式は投資簿価で評価

インベストメント事業 新規投資

第4四半期において、スタートアップ3社に新規投資実行(通期合計18社)。

2022年3月期第4四半期 新規投資	
 株式会社Craftie	ハンドメイドキットの サブスクリプションサービス https://craftie.co.jp/
 Plus One, Inc	VRデバイスを用いた オンライン英会話学習サービス https://www.plusone.space/company
 nat株式会社	リフォーム事業者向け LiDARセンサーを活用した 3Dスキャンングアプリ https://www.natincs.com/

2022年3月期 新規投資			
			
			
			
			
			

インベストメント事業 主なスタートアップ投資先

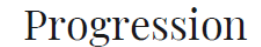
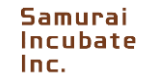
2022年4月より、ベンチャーユナイテッド(株)から当社投資事業本部へ組織を統合し、体制を強化。DXソリューション本部との連携強化により、シード～アーリーステージ企業への投資、およびバリューアップにさらに注力。

ポストIPO	ミドル～レイター		シード～アーリー			
mercari	 dely	 excite	Mrk & Co	 meetcareer	 Fairy Devices	 hubble
 WonderPlanet	Biophilia inc.	 cluster	 Lisa Technologies Inc.	 PoliPoli	GATARI Inc.	 azit
 CyberBuzz	inglewood	GRACIA	 LifeLab	 C2C	 KitchHike	KiHeiTai Inc.
	FIREBUG Entertainment Startup	 Travel Book	 Journey	& LANDART	SOCIAL INTERIOR	 ventus
 SocialWire Group	 Findy	 SOELU	 HARMONIA	 Jiraffe	 translimit	 10SMART PlusOne ^{NEW}
	 Studyplus	 ネクイノ NEXT INNOVATION	 HOSHIGUMI	 Matcher	 Minimal Bean to Bar Chocolate	 HOMMA
 Confidence	 ONESTORY オンラインストーリー		 ARANCIONE	 FULL KAITEN	 Campingcar	 Craftie ^{NEW}
						 n ^{NEW}

インベストメント事業 主なLP出資先

多数の外部ファンドへLP出資を行うことで、運用益の計上を見込むとともに、新規投資案件のソーシング先としても活用(1,000社以上のスタートアップへリーチ可能)。

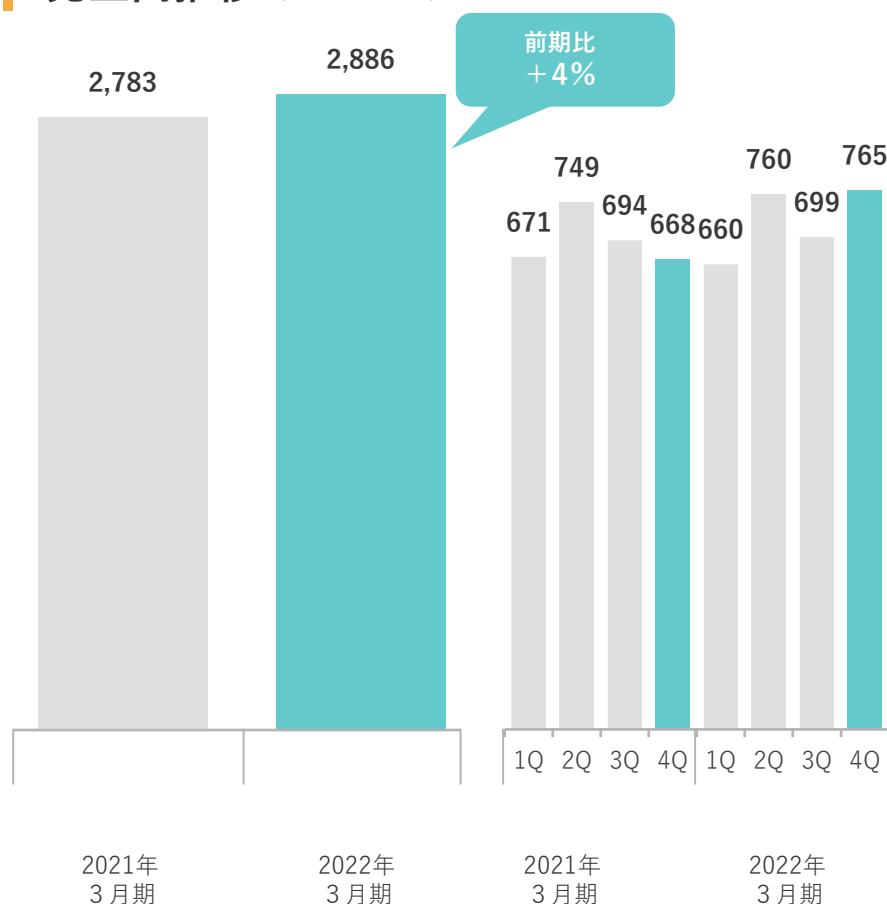
LP出資先



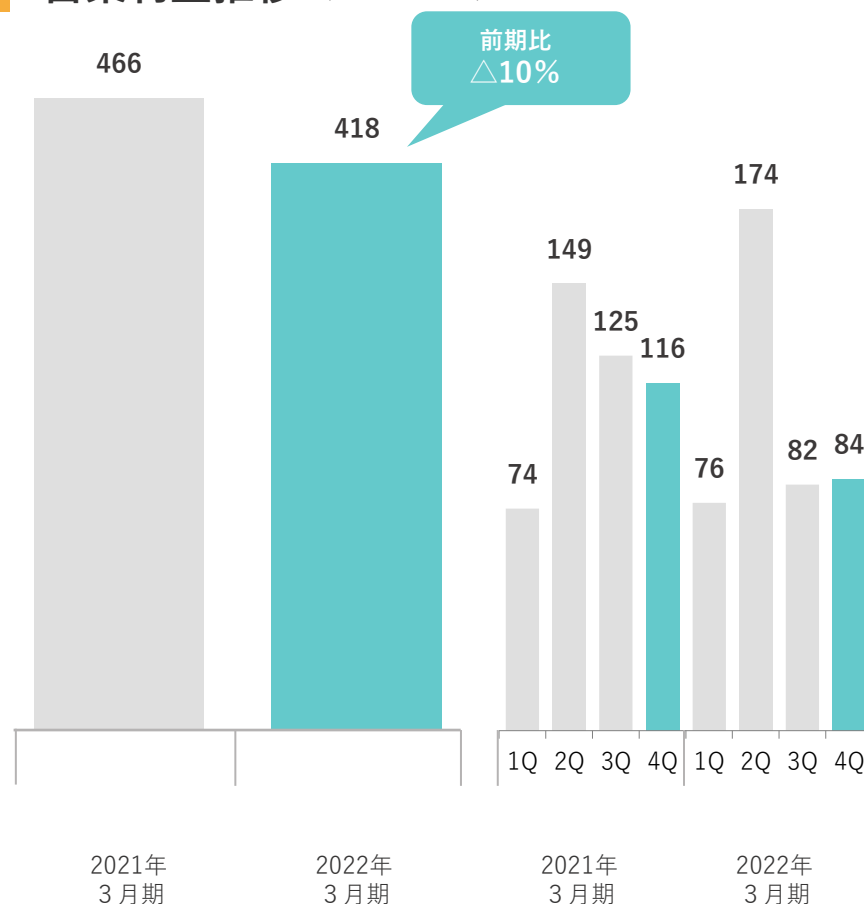
コンテンツ事業 売上高・営業利益推移

売上高は(株)インターナショナルスポーツマーケティング、(株)トレイスの増収により、前期比+4%。
一方、営業利益はフォグ(株)において、市場シェア拡大に向けた新規サービス開発投資を行った影響により、前期比△10%で着地。

売上高推移 (単位：百万円)



営業利益推移 (単位：百万円)



「クラッシュフィーバー」における業務提携解消について

当社子会社プラスユー(株)と当社出資先であるワンダープラネット(株)の共同事業であるゲームアプリ「クラッシュフィーバー(以下、本タイトル)」において、2022年5月1日付で両社の業務提携を解消し、共同運営権持分^{*}をワンダープラネット(株)に譲渡。
当社は、今後もワンダープラネット(株)の株主として中期的に成長を支援し、同社の企業価値向上を図る。

内容	・ 本タイトルのさらなる長期的/安定的な運営、且つ両社の企業価値向上のため業務提携を解消し、ワンダープラネット(株)単独で運営を行っていくことについて両社合意の上で決定 ・ 業務提携の解消に伴い、本タイトルにおけるプラスユー(株)の共同運営権持分を、ワンダープラネット(株)に譲渡
譲渡の価額	・ 350百万円
効力発生日 および譲渡日	・ 2022年5月1日
業績への影響	・ 2023年3月期1四半期連結会計期間において、特別利益350百万円を計上予定 ・ 上記を含めた業績への影響については、2023年3月期通期業績予想内に反映(P21)
その他	・ 当社は、2022年2月末時点でワンダープラネット(株)の株式153,800株(発行済株式総数(自己株式を除く)の7.1%)を保有

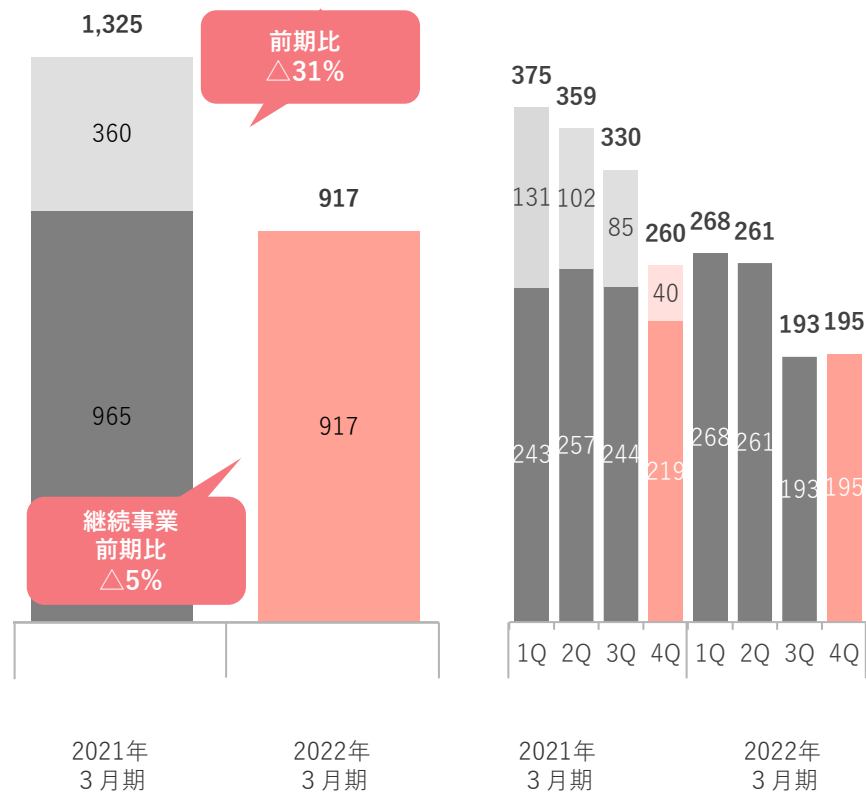
※ 本タイトルに関する企画、開発および運営の一切を行い収益を収受する権利、かつ知的財産権のプラスユー(株)の持分

アドテクノロジー事業 売上高・営業利益推移

アプリ広告領域の撤退およびBypassの売上減少により、減収減益で着地となるも、社内予算計画を上回って着地し、安定的な収益を確保。

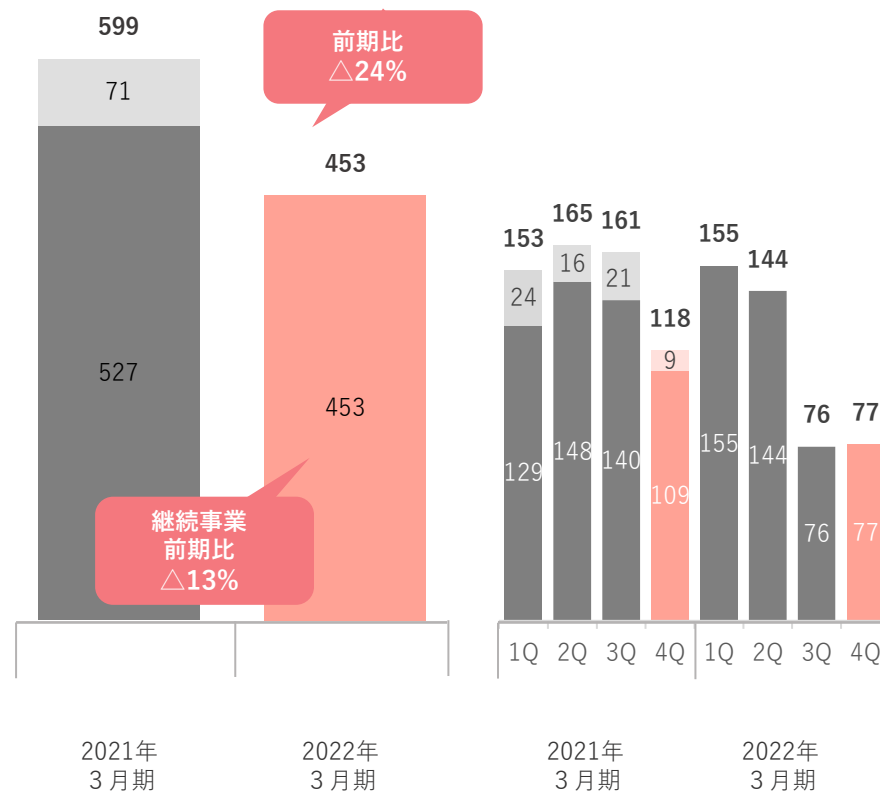
売上高推移 (単位：百万円)

- アプリ広告領域 (非継続事業)
- ウェブ広告領域 (継続事業)



営業利益推移 (単位：百万円)

- アプリ広告領域 (非継続事業)
- ウェブ広告領域 (継続事業)



アジェンダ

- 1 2022年3月期 決算概要 P1
- 2 2022年3月期 各事業の概況 P7
- 3 2023年3月期について P16
- 4 Appendix P23

本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることを、ご承知おきください。なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。事業計画及び成長可能性に関する事項については、2022年6月末頃に開示を行う予定です。

市場の成熟/競争環境の高度化に伴い、当社として中長期に渡って独自性のある強みを築き、持続的な成長を実現するために当社の存在意義を示すパーパスを制定。

意志の力を最大化し、 社会の善進を加速する。

自らをより前に進める人。
社会をより前に進める事業。

社会は、意志ある人、意志ある事業によって
より善い方向へと進化していく。

強い意志こそが、社会を善い方向へと
変えていくエネルギーそのもの。

UNITEDは、そのエネルギーを、
意志の力を、最大化させる。

意志ある人に、知恵と機会を。
意志ある事業に、資金とノウハウを。
そして、両者が出会い、
互いの成長が、さらなる成長を生む。
成長の連鎖で、社会を満たしていく。

意志の力で
社会を善い方向へ、より速く進めていく。

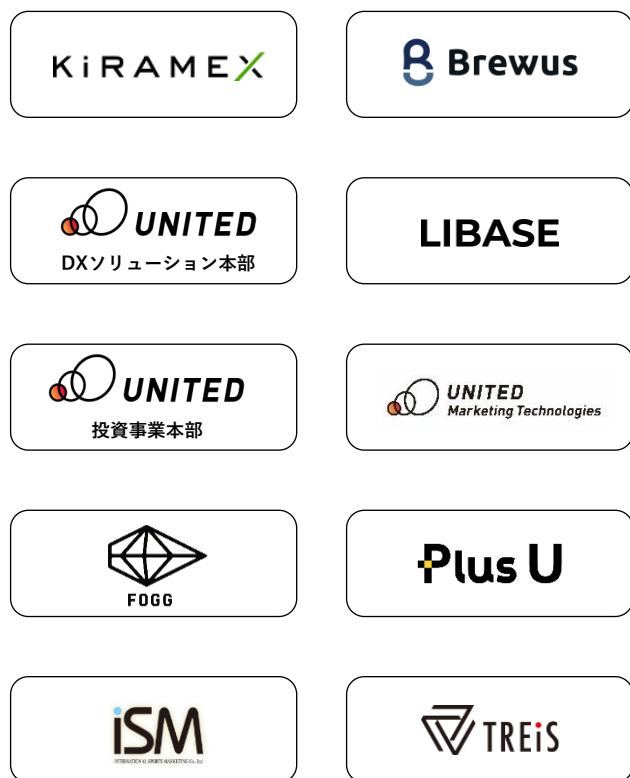
意志の力を最大化し、
社会の善進を加速する。

事業方針

これまでは各事業個別に戦略策定を行ってきたが、
成長期待事業は、事業間連携を強化することでシナジーの創出を図り、
収益期待事業は、引き続き各事業個別に戦略策定を行い、安定的な収益基盤の形成を図る。

2022年3月期迄

各事業個別に戦略策定



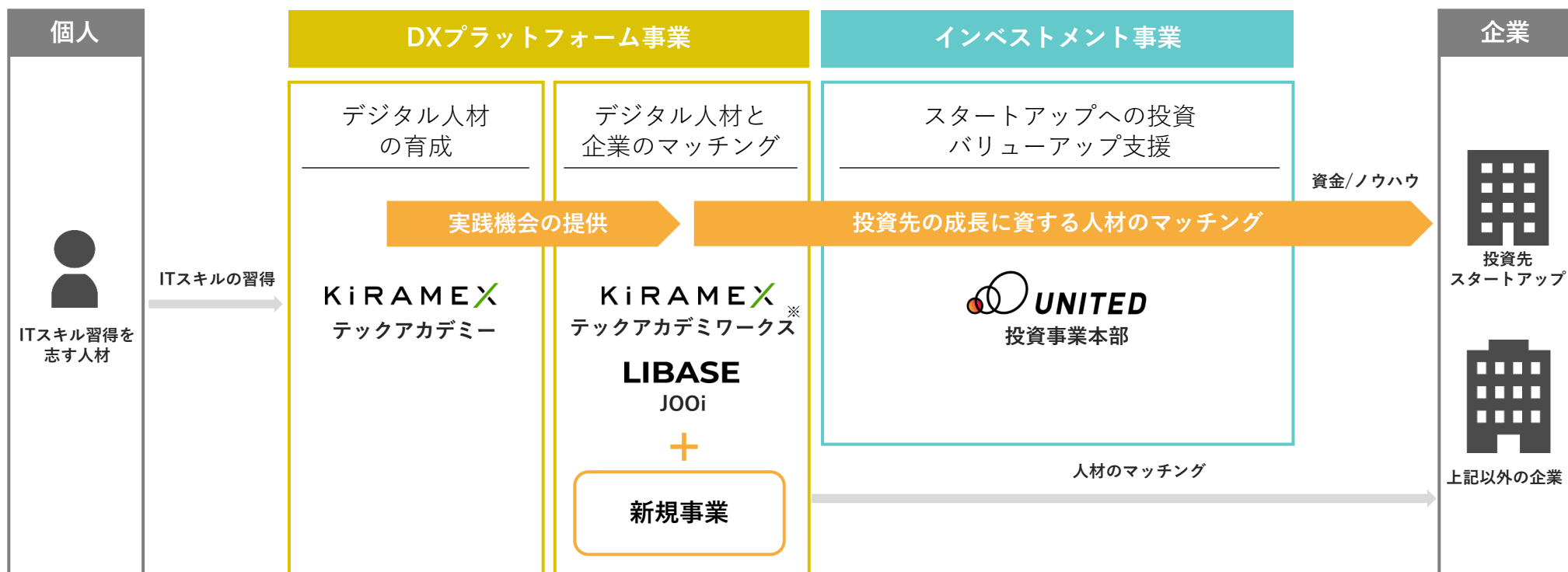
2023年3月期以降

事業間連携によるシナジーの創出



成長期待事業間の連携

DXプラットフォーム事業において、デジタル人材を育成し、育成したデジタル人材と企業のマッチングを行う。
インベストメント事業の投資先に対して、成長に資するデジタル人材のマッチングを行うことで、
投資先のバリューアップを図る。
併せて、デジタル人材と企業のマッチング事業における新規事業開発を強化。



※テックアカデミー卒業生がメンターと共同で実務案件に取り組むことで、就職・独立前に実務経験を積むことができるサービス

新経営体制[※]

代表取締役を2名体制とし、成長期待事業であるインベストメント事業・DXプラットフォーム事業の管掌を分担するとともに、キラメックス(株)のさらなる強化を行い、より一層の企業価値向上を目指す。

氏名	新役職名	旧役職名(2022年3月末時点)	主な管掌事業・部門
早川 与規	代表取締役社長 兼 執行役員	代表取締役社長 兼 執行役員	インベストメント事業
金子 陽三	代表取締役 兼 執行役員	取締役 兼 執行役員	DXプラットフォーム事業
山下 優司	取締役 兼 執行役員	執行役員	経営管理本部
樋口 隆広	取締役 兼 キラメックス(株)代表取締役	キラメックス(株)代表取締役	キラメックス(株)

※ 2022年6月下旬開催予定の第25回定時株主総会、及び同総会終了後の取締役会において決定

2023年3月期 通期業績予想[※]

	業績予想	前期実績	前期比
売上高	12,800百万円	12,714百万円	+1%
営業利益	5,800百万円	5,738百万円	+1%
経常利益	5,800百万円	5,757百万円	+1%
親会社株式に帰属する 当期純利益	4,200百万円	3,825百万円	+10%
EPS (一株当たり純利益)	208.00円	181.26円	+12%

※ 2022年3月期までの実績及び入手可能な情報や予測等に基づき算定

自己株式の取得および消却

資本効率、株式価値の向上を図るため、自己株式の取得および消却を予定。
株式総数上限の自己株式を取得した場合、消却株式数は発行済株式総数の2.7%。

自己株式の取得	
取得価額の総額	上限 1,000百万円
取得株式の総数	上限 550,000株 自己株式を除く発行済株式総数に対する割合2.7%
取得期間	2022年5月12日 ~ 2022年12月23日
取得方法	東京証券取引所における市場買付(取引一任契約に基づく市場買付)

自己株式の消却(消却予定日：2023年2月末日)	
取得予定 自己株式の消却	今回取得する自己株式の全株式数(上限 550,000株)

アジェンダ

1	2022年3月期 決算概要	P1
2	2022年3月期 各事業の概況	P7
3	2023年3月期について	P16
4	Appendix	P23

本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることを、ご承知おきください。なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

2022年3月期実施の自己株式の取得および消却結果

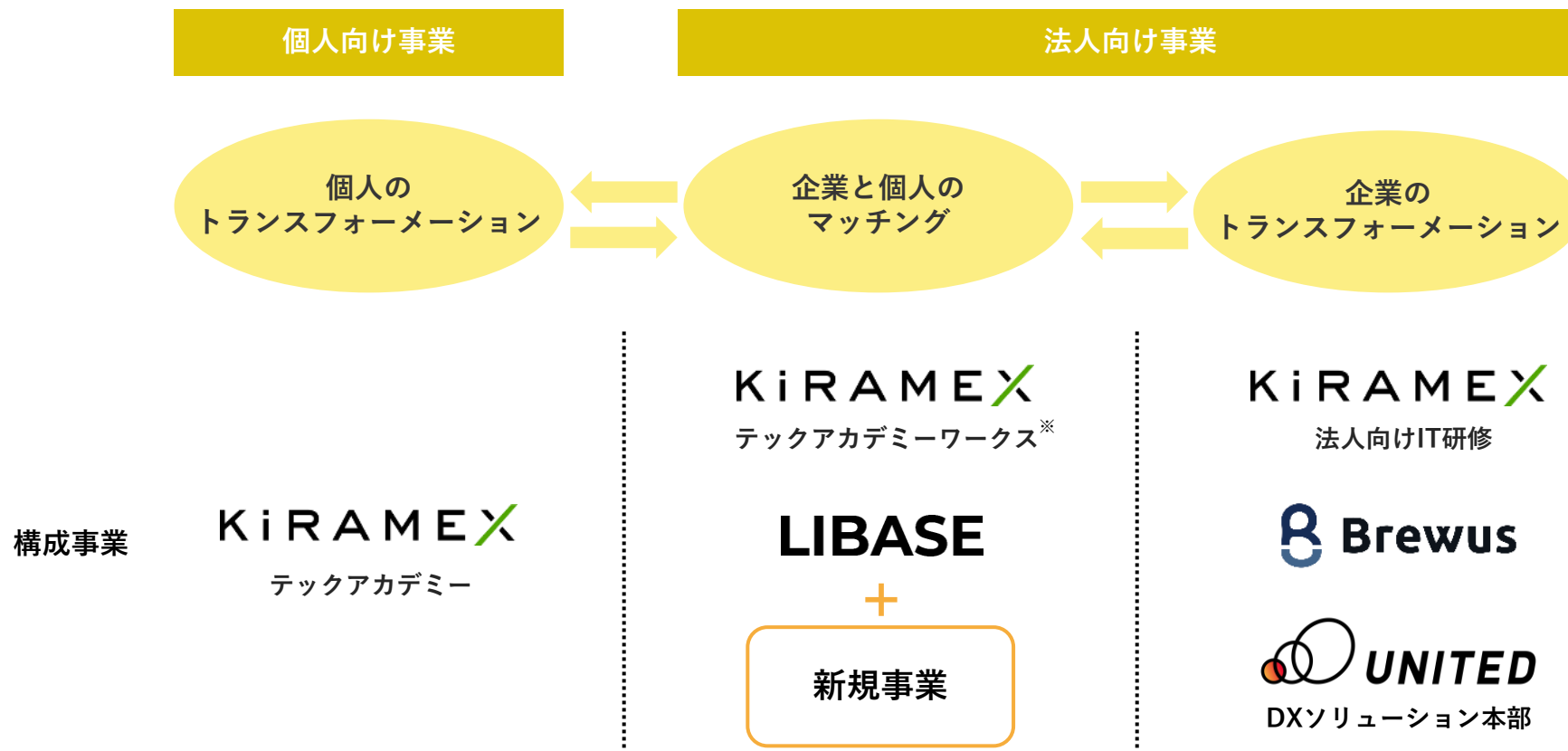
資本効率、株式価値の向上を図るため、自己株式の取得および消却を実施。
消却株数の合計は、2021年3月期通期決算発表時点(2021年5月11日)における発行済株式総数の**12.3%**。

自己株式の取得	
株式の取得価格総額	2,999,992,500円
取得した株式の総数	1,715,500株
取得期間	2021年5月12日 ~ 2022年2月21日

自己株式の消却	
1.保有自己株式の消却 消却日：2021年5月31日	消却株数：1,200,000株 2021年3月期通期決算発表時点(2021年5月11日)の発行済株式総数に対する割合は 5.1%
2.取得した自己株式の消却 消却日：2022年3月31日	消却株数：1,715,500株 2021年3月期通期決算発表時点(2021年5月11日)の発行済株式総数に対する割合は 7.2%

DXプラットフォーム事業内訳

個人と企業のトランスフォーメーションを推進するとともに、
双方のマッチングを行うプラットフォームとして、社会のDXを推進。



※テックアカデミー卒業生がメンターと共同で実務案件に取り組むことで、就職・独立前に実務経験を積むことができるサービス

連結損益計算書(第4四半期)

(単位：百万円)	2021年3月期 第4四半期 (前年同四半期)	2022年3月期 第3四半期 (前四半期)	2022年3月期 第4四半期	増減	
				前年同四半期比	前四半期比
売上高	1,668	2,686	1,927	+16%	△ 28%
DXプラットフォーム事業	661	564	664	+1%	+18%
インベストメント事業	79	1,230	304	+284%	△ 75%
コンテンツ事業	668	699	765	+15%	+9%
アドテクノロジー事業	260	193	195	△ 25%	+1%
その他	△ 0	△ 1	△ 1	△ 0	△ 0
売上総利益	605	1,661	837	+38%	△ 50%
DXプラットフォーム事業	25	83	209	+705%	+149%
インベストメント事業	73	1,220	252	+246%	△ 79%
コンテンツ事業	318	231	245	△ 23%	+6%
アドテクノロジー事業	188	126	130	△ 31%	+3%
その他	△ 0	△ 0	△ 0	△ 0	△ 0
販売費及び一般管理費	692	608	711	+3%	+17%
営業利益	△ 86	1,053	125	+211	△ 88%
DXプラットフォーム事業	△ 201	△ 92	0	+202	+93
インベストメント事業	55	1,196	230	+318%	△ 81%
コンテンツ事業	116	82	84	△ 27%	+2%
アドテクノロジー事業	118	76	77	△ 35%	+2%
その他	△ 175	△ 209	△ 267	△ 92	△ 57
経常利益	△ 132	1,066	138	+270	△ 87%
四半期純利益 [※]	△ 122	728	△ 49	+72	△ 778

※「親会社株主に帰属する四半期純利益」を示す

連結貸借対照表

主に保有する上場株式の時価評価および売却による影響により、資産・負債が減少。
純資産は上記影響に加え、純利益の計上および自己株式取得により変動。

(単位：百万円)	前期末 (2021年3月末)	当期末 (2022年3月末)	前期末差額
流動資産	46,115	34,179	△ 11,936
現預金	13,774	12,165	△ 1,608
営業投資有価証券	30,953	18,789	△ 12,163 [※]
固定資産	1,240	4,521	+3,281
のれん	-	327	+327
資産合計	47,356	38,701	△ 8,655
流動負債	3,114	2,812	△ 302
固定負債	8,206	5,600	△ 2,605
繰延税金負債	8,098	5,524	△ 2,574 [※]
負債合計	11,321	8,412	△ 2,908
純資産	36,034	30,288	△ 5,746
その他有価証券評価差額金	18,571	9,601	△ 8,970 [※]

※ うち上場株式の営業投資有価証券の時価評価及び売却による影響は以下のとおり
営業投資有価証券△13,101百万円、繰延税金負債△3,990百万円、その他有価証券評価差額金△9,042百万円

キャッシュフロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額が増加したため、前期より獲得額が減少。
財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式取得のための支出により、前期より使用額が減少。

(単位：百万円)	2021年3月期 連結累計期間	2022年3月期 連結累計期間	前年同期差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,992 ^{※1}	2,718 ^{※2}	△ 4,273
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 171	△ 477	△ 306
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,428 ^{※3}	△ 3,849 ^{※4}	△ 2,421
現金及び現金同等物の期末残高	13,774	12,165	△ 1,608

※1 うち営業投資有価証券売却 5,501百万円、法人税等還付額 393百万円

※2 うち営業投資有価証券売却 6,281百万円、法人税等支払額△2,107百万円

※3 うち自己株式取得関連支出△754百万円、配当金支払△378百万円

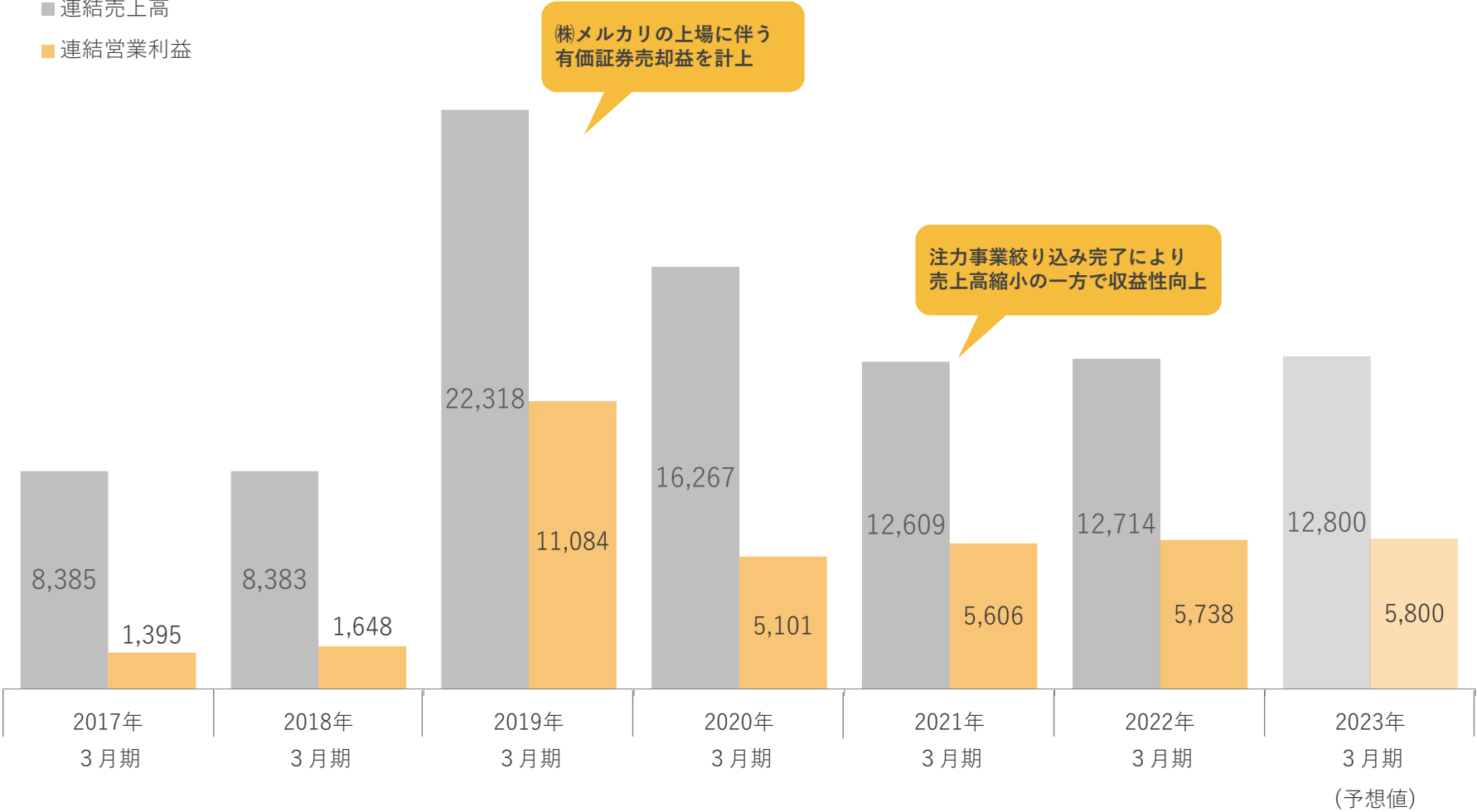
※4 うち自己株式取得関連支出△3,000百万円、配当金支払△775百万円

過年度通期連結売上高・営業利益推移

(単位：百万円)

■ 連結売上高

■ 連結営業利益



人員推移表

(単位：人)

■ 臨時社員

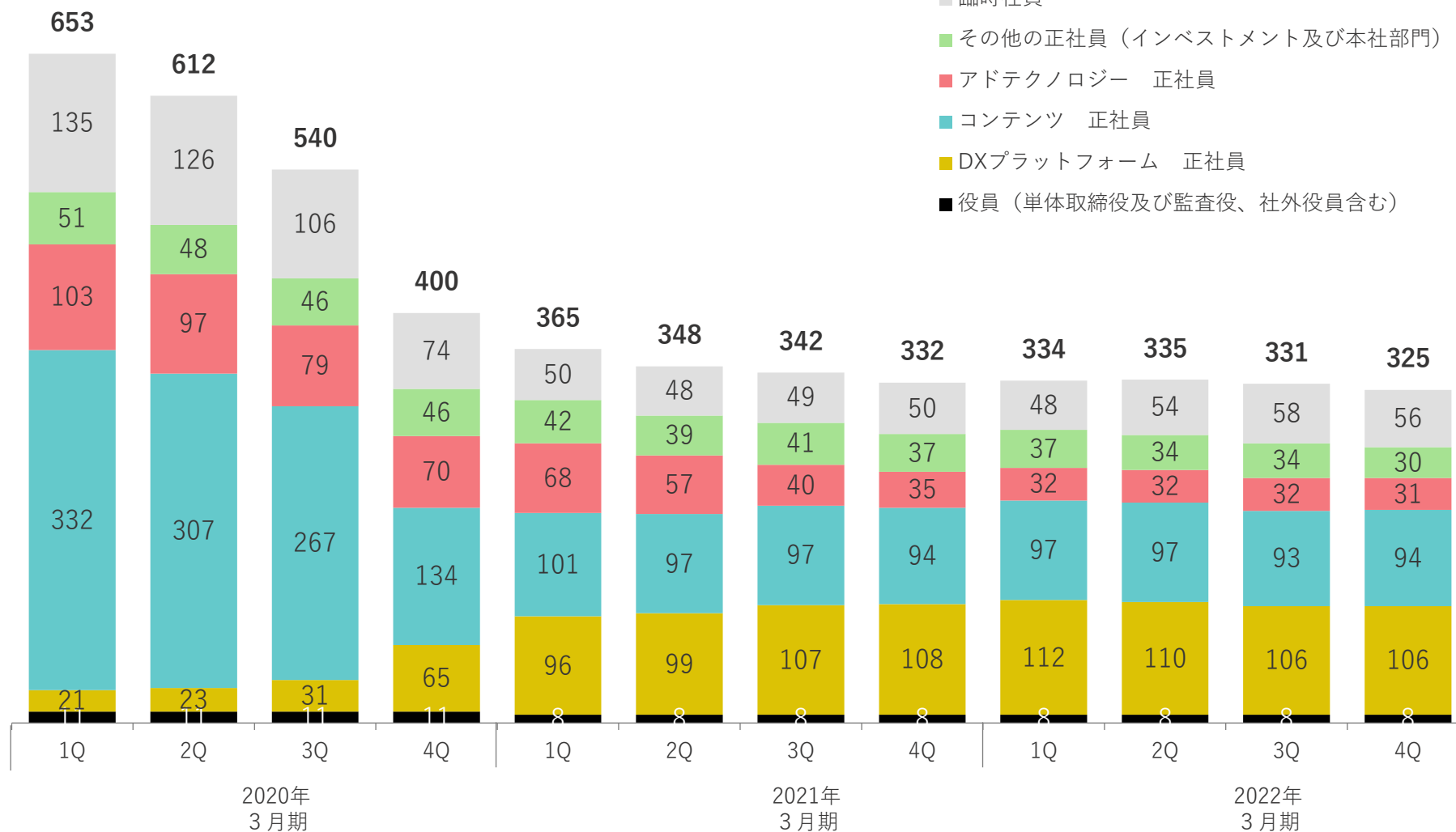
■ その他の正社員（インベストメント及び本社部門）

■ アドテクノロジー 正社員

■ コンテンツ 正社員

■ DXプラットフォーム 正社員

■ 役員（単体取締役及び監査役、社外役員含む）



コーポレートアイデンティティ(CI)のリニューアル

パーパス制定にあわせて、その意図を表現した新たなCIへと変更。

3つの連鎖する円によって、「強い意志から、成長が生まれ、広がっていく」そのプロセスを表現。

一番左の正円は、強い意志が徐々に熱を帯びていく様子をオレンジ色のグラデーションに込め、

それに連なる2つの楕円は、加速しながら前に進んでいく様子を前傾する強度・角度で表現。



